



⑦ reach

(2018年・大阪) 3.5分 監督:木村修一

謎の廃工場に囚われた見ず知らずどうしの男女。男の頭上にはどう見てもヤバそうな時限爆弾。状況打開する為には2人はモテるエロティシズムを駆使していくのだが…とにかくバカバカしいエロコメディです。笑って頂けたら幸いです。



⑧ える-eru-(長野県伊那市Ver.)

(2025年・東京) 10分 監督:酒徳ごうく

ナイトクラブ歌手、エル和子がシャンソンで綴る女の一生。あえる、いえる、うえる…小刻みに映し出す数秒の景色はエル和子の走馬灯の様…。『五十首+える』で構成された歌詞に合わせて映し出す知育ミュージックビデオ。今回新たに伊那市の撮影カットを加えた新バージョンです。

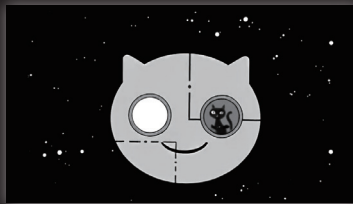


⑨ ませるな危険

(2025年・三重県) 15分 監督:市川良也

新型ウィルスの感染拡大で不安と閉塞感に包まれた社会を背景に、将来に迷う高校生ふたりの青春を描いた物語です。理想と現実の狭間で揺れる高校生男女は、互いに出会い、小さな共鳴を見つけていきます。大人への不信、家族の秘密、社会の不条理…。それでも笑いやユーモアを交えて描かれる彼らの姿には、今を生きる若者の等身大の苦悩と希望が込められています。

監督より:「コロナ禍で急速に大人びてしまった若者たちの“危うさ”と“輝き”を残したいと思いました。観客の皆さん自身の青春と重ねてもらえたら嬉しいです。」



⑩ La vie en rose N°2

(2025年・伊那市長谷) 7分 監督:mint

ツンデレな猫のアニエスの日常を描いた「[ラ色の人生]」の第2弾。自由気ままなアニエスは「眠りについて第三者目線の夢を見ることが仕事」で、夢の世界で自分の姿を見て成長するのを目的としている。今回は何をやるのでしょうか…。アニエスのシュールな世界は、前作未見でも楽しめる、お気軽なオムニバスショートフィルムです。ぜひご覧ください！



⑪ まっすぐ見てもいいのに…

(2025年・横浜) 10分 監督:繁田健治

吉住は若い女性と遭遇。「高校の同級生のひとみ。私のあの頃のままですよ。」

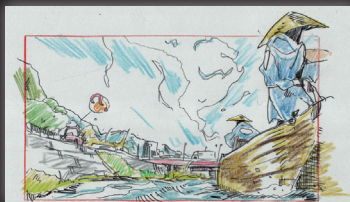
これは自分の妄想に違いない。俺も焼きが回った…。と状況に身を任せる吉住だった…。伊那(長野)ーあわら(福井)を結んで10分の物語が展開します。



⑫ 上伊那の不思議 2025

(2025年・南箕輪村) 5分 監督:三木敦朗

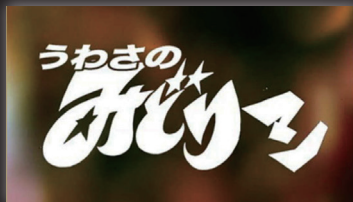
身近な地域であっても、行ったことのないところというのは、たくさんあります。いつもの地域にも新しい発見があります。それを見つけない、歩きだしましょう。偶然性に、身を任せて。



⑬ 伊那谷まんがえいが

(2025年・信州大学) 7分 監督:新開大輝

箕輪町で子どもと関わる仕事をしているとなんとなくこの伊那谷を舞台に彼らにアニメーション作品を作りたいなりました。伊那谷の自然と歴史と暮らしを絵と動きでもって開放的に描き出してみたいと思いました。しかし伊那谷を勉強してみると、その自然の力と文明の勢いに圧倒されなかなかテーマがつかめません。かといって昔話や地域に貢献した人物をそっくり描くことがアニメーションの今日的な可能性ではないようにも思われました。この困難な時代に子どもたちを励ます作品はどうあるべきか。そんなとき、かつての激動の時代に伊那谷に辿り着いた謎の俳人に会いました。今より少し先を舞台に、かすかな予感を届けます。



⑭ うわさのみどりマン

(2002年・京都) 6分30秒

監督:石田アキラ

おそろく…自分が手掛けた作品の中で最もシュールなヒーロー？作品です。作った本人でさえも…自分は、何を撮っているのだろうか？と思いながら撮ってました(笑) 果たして…この作品を共感してくれる人は居るのでしょうか？皆さん…これを機会に是非、みどりマンのファンになってください。



⑮ ナゾミさん1966 伊那谷のテキリリ (前編)

(2025年・東京) 15分

監督:野村忠弘

構想7年、撮影5年。お待たせしました。遂に「ナゾミさん1966伊那谷のテキリリ(前編)」の公開です。1966年の伊那町を舞台にしたSF伝奇映画。忠実に再現された当時の懐かしい風景の中に展開される驚天動地の物語。どうぞお楽しみに。後編は2026年公開予定。



⑯ LAST ORDERS father's beer 伊那編

(2025年・福井県あわら市) 7分 監督:岡田広

彼女はハウンド部隊隊長スモーカーを捜していた。男の手がかりを求めて伊那の街を彷徨い、ハウンド部隊の刺客と戦いながら遠く離れたBAR「LAST ORDER」を目指した…。いろんなハウンド作品の物語が交差するアクション作品。今回は伊那の映画祭に参加した時に一緒に参加した監督さんと俳優さん達にご協力頂いて伊那の街で撮影した前半シーンの特別編です。



⑰ A world of only (2025年・千葉県)

15分 監督:小野光洋

人間関係がうざったくなったユリ。「他人と関わりがない、私だけの世界で生きていきたい。」ある日、黒い服の女から、不思議なバッチをもらう。そのバッチをつけると、「誰からも気にされなくなる」という。早速、そのバッチをつけてみるユリ。「私たちが自由！どこで何をしても、誰にも文句言われな！」「自分中心に半径2メートル以内で生きていく生き方」…をテーマにした作品です。



⑱ 前向き (2025年・愛知県清須市) 5分

監督:杉田一豊

今回は「人に迷惑をかけないシリーズ」タイトル「前向き」家人にはあまり評判は良くありませんが「我が人生 これだけは譲れない！！」と私がずっと決めている事です。



⑲ 探偵ゾンビ赤羽又はゾンビ探偵赤羽

(2025年・伊那市) 13分 監督:KO3組

陰謀論を超えて、ゾンビや人間などの何者かが高遠の森を背景に蠢いています。昨年創造館で上映いただいた短編の後半にあたる謎解き編ですが、謎が解かれた気がしません。悪夢のような物語は「アカハラ(イモリ)」とともに動き出すはずですよ。



⑳ タイムズ三人衆 (2025年・東京) 15分

監督:ハヤト丸

皆さんには「やり直したい過去」はあるだろうか？それよりも「未来への希望」が重要か？伊那市の秘密研究所では天才博士による『時空実験プロジェクト』がひそかに行われていた。今回の実験は3タイプの時間操作を検証。タイムリープ！「過去をやり直し今を取り戻す」タイムトラベル！「未来で今の結果を見極める」タイムストップ！「今この瞬間を掌握する」実験に参加した3人の男達の運命は？それ以前に実験は成功するのか？…という、時間操作をリアルな視点で描いた作品です。内容は関連しておらず場所やキャラクター程度ですが、一昨年から伊那映画祭で上映している昆虫実験体シリーズからつながる作品になります。

※全ての上映予定作品・上映順は、変更になる場合があります。

伊那市創造館 INA-CITY SOUZOU-KAN

〒396-0025 伊那市荒井 3520番地
TEL:0265-72-6220 Fax:0265-74-6829
Mail:szk@inacity.jp



※お車で越越しの方は、「いなっせ駐車場」をご利用の上、駐車券を創造館1階事務室までお持ちください。

休館日

10月

7日(火)、14日(火)
21日(火)、28日(火)

開館時間 午前10時～午後8時(学習室)

午前10時～午後5時(展示室)

※展示室の最終入場は午後4時45分です。



伊那市創造館マスコットキャラクター

今年の井月句

鬼面を脱がして
みれば 笑顔哉
秋風が吹き渡る季節と
なりました。
この季節も笑顔でいき
ましょ。